

インスリンボールはありませんか？

インスリンを痛くないところ、打ちやすいところばかりに打っていませんか？
同じ場所に注射針を刺し続けると、その場所の皮下脂肪が肥大したり、硬くなったりします。この状態を「**インスリンボール**」や「**脂肪肥大**」と呼びます。



「インスリンボール」

Am J Med. 2014 May;127(5):450-4.

「インスリンボール」に注射すると…

- ・ 血流が低下しインスリン吸収が障害されて期待するインスリンの効果が得られない
- ・ 皮膚の赤みやかゆみの原因になる
- ・ 針を抜いた後、注射部位からインスリンが漏れてしまう
このような事が起きる可能性があります。



もしインスリンボールが出来てしまった場合は、その場所は避けてインスリンを打つようにしましょう。硬結や腫れは数か月で自然と消失していきます。また、避けて打つことでインスリンの吸収が改善され、血糖コントロールに影響する可能性があります。先生や看護師に相談して下さい。

～インスリンボールを作らないポイント～

- ・ 注射する場所を毎回2～3cm（指2本程度）ずつずらして打つようにしましょう。
- ・ 定期的に注射部位を手で触って、硬結・腫れがないかを確認しましょう。

